

日吉神社 おたうえさい 御田植祭・サノボリ



いよいよ、田植えのシーズンとなりました。先月号で紹介した「天道花」により、山から下りて来た「田の神」も本格稼働です。今月は、田植えにちなんだ祭礼と年中行事をご紹介します。



水田の前に祭壇を設置 (平成 30 年撮影)



神事を執り行う 林宮司 (平成 30 年撮影)

【御田植祭】早乙女姿で豊作願う
日吉神社 (池上町) では、五穀

豊穰や子孫繁栄を願う祭礼の一つとして6月に御田植祭が行われます。御神田の前に祭壇を設置し神事を執ります。その後、早乙女姿やはっぴ姿の子どもたちが水田に入り、太鼓の音に合わせて植えていきます。

植えるのは古代米の早苗で、10月末の「抜穂祭」で収穫し、12月の「新嘗祭」でお餅にして神前に供えられます。供えられたお餅は、

祭礼の参列者や子どもたちにも配られます。



暑さと泥の冷たさの中、早乙女姿で苗を植えていく子どもたち (平成 30 年 8 月号広報より)

【サノボリ・アマヤスミ・ドロヤスミ】田の神が山へ還る日

現在の田植えというところ、乗用の田植え機が颯爽と植え込んでいく姿を思い浮かべますが、かつては泥田の中で腰を曲げ手で植える、労力も時間もかかる大変な作業でした。

そのため田植えが終わると「サノボリ」「サナブリ」「アマヤスミ」「ドロヤスミ」などといって、村全体で休日を設け、団子やチマキでお祝いをしていました。

さて、先月号で登場した「天道花」で山から里に迎え入れた田の

神ですが、民俗学では「サ」が稲の神を表しているとされています。この記事で登場した「早乙女」「早苗」や、「早月」の「サ」も「稲」に置き換えると、言葉の意味が良く分かります。早乙女は「苗を植える女性」、早苗は「稲の苗」、早月は「稲の耕作を始める月」となります。

「サノボリ」のお祝いとは、田植えが無事終了することを見守っていた田の神を山へ還す「稲神(サ)」が山上へ戻る(ノボル)祭礼であり、団子やチマキはそのお供え物でもあったのです。

サノボリは農家にとってめでたい休日であり、北条町の商店街ではこの日に合わせて、サノボリを見込んで大売り出しをやっていたそうです。現在の夏季大売り出しより1カ月ほど早いバーゲンセールで、北条の町は賑わっていたようです。

《御田植祭に参加できます》

参加ご希望の方は、6月15日までに日吉神社へお申し込みください。

今年は6月22日(土) 10時(問合先) 日吉神社 ☎1616

KASAI データバンク R6.4.30 現在 (前月比)

人口 / 41,755 人 (-37) 男 / 20,501 人 (-28) 女 / 21,254 人 (-9) 世帯数 / 18,604 (37)

4 月の出生数 / 14 人 死亡数 / 45 人 ● 6/12、26 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)

● 加西市の市外局番は0790です。誌面では省略しています。

● 加西市 HP <https://www.city.kasai.hyogo.jp>

発行 / 加西市 〒675-2395 加西市北条町横尾1000番地 ☎0790②1110(代)

編集 / 総務部秘書課 ☎0790②8701 fax0790③0291